1 『日本精華　第１集』 工藤利三郎

奈良: 工藤利三郎, 明治 41 年（1908）5 月
図版 100 枚 ; 37cm

工藤利三郎（1848-1929）は、徳島出身の美術写真家。明治初年の廃仏毀釈以降日本の古美術品が破壊や海外流出の危機にあるのを知って写真による文化財の記録を志したという。東京で写真技術を習得した後、明治 26 年（1893）45 歳の時、徳島より奈良に居を移して、猿沢池畔に古美術・古建築専門の写真館「工藤精華堂」を開業。岡倉天心などとも親交を結び、仏像を中心とした文化財の記録に本格的に取り組む。昭和 4 年（1928）に没するまで、大和の社寺をはじめ、中尊寺、日光、臼杵など全国各地の文化財の写真を撮影した。

「日本精華」は、明治 41 年（1908）から大正 15 年（1926）にかけて刊行された全 11 冊から成る工藤の写真集。サイズは B5 版、布クロス製表紙、大和綴で、各冊コロタイプ図版 100 枚を載せ、各図版には、日本語と英語によるキャプションが付されている。工藤の写真は自然光による撮影が特徴で、興福寺の阿修羅像のように修理前の姿を記録に留めているものも多数存在する。

2 『特別保護建造物及国宝帖 第２帖』
内務省編纂

東京　審美書院，明治 43 年（1910）3 月
図版 152 枚 ； 40cm

明治 43 年（1910）イギリスで開催される日英大萬国博覧会の際に日本美術を紹介する目的で作成された。古社寺保存行政を担当する内務省が編纂し、岡倉天心をはじめ、伊藤忠太、関野貞など古社寺保存会の委員が執筆している。明治 30 年（1897）の古社寺保存法によって指定された特別保護建造物 733 棟と国宝 1990 点の中より重要なものを選び、図版 520 余枚を 3 帙に収め、別冊 1 冊を解説編としている。解説編は建造物と彫刻絵画巧芸（国宝）の 2 部に分かれ、総論と時代別解説および被写物についての解説からなる。

本書以前に明治 33 年（1900）年のパリ万国博覧会に出品するために編纂された、日本美術史の嚆矢といえる『稿本日本帝国美術略史』が、いわゆる美術作品中心であるのに対し、本書は建造物の比重が高い。建造物の部は、図版数も全体の三分の一をしめ、時代概説も現代（明治時代）までを含んでいるが、彫刻絵画巧芸（国宝）の部では図版の選択および解説が室町時代までで終わっている。